

木野

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

通信

第82号

2024 July

卒業生インタビュー
山田 泰子さん(切手デザイナー)
平野 成悟さん(美術家・キュレーター)

特集
京都で学ぶ、
アートとデザイン



京都で学ぶ、 アートとデザイン

日本を代表する古都であり、歴史に育まれた伝統の美をいまに残す街・京都。長い時間をかけて培われてきた技術や美意識が守られながら、一方で、まったく新しい表現による作品や場所も次々に生まれています。伝統と革新が同居するこの街で、アートやデザインを学ぶ意味とは何か。京都精華大学が行っている取り組みとともに、副学長の吉岡恵美子が語ります。

Interview



吉岡 恵美子 芸術学部共通教員／教学担当副学長
2014年まで金沢21世紀美術館でキュレーターとして勤務。「大地の芸術祭」の企画協力(2015年～)を務めるほか、学内外で展覧会を多数企画。京都文化財団評議員も務める。

京都の根底にある「美意識」

国内外問わず、京都以外に住む人にとって京都という場所は「伝統・文化・歴史が温存された美しい街」というイメージがあるかと思います。実は、関東で生まれ育った私もそうでした。私はイタリアのミラノを中心に6年ほど暮らした後、金沢21世紀美術館の立ち上げに伴って石川県へ拠点を移し、同館でキュレーターを務め、2014年に京都精華大学に教員として着任しました。そして、実際に京都で暮らし、大学で教えるようになって、これまでは見えてこなかった京都の魅力、この土地でアートを学ぶことの利点に気づ

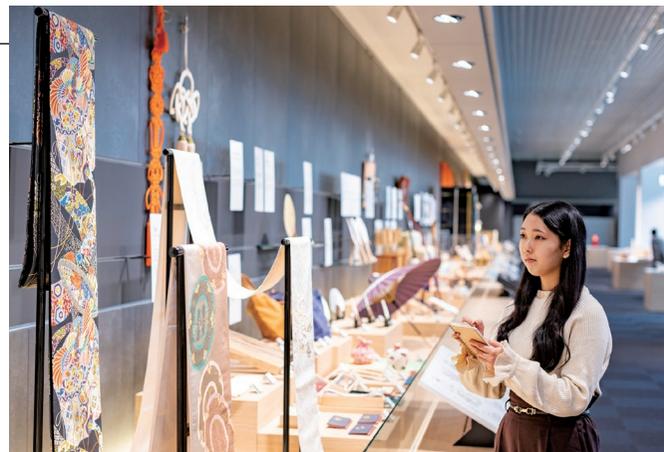
きました。

まず、京都の大きな魅力は、「ちょうどいいサイズ感で動き回りやすい街」であること。たとえば、欧米の大都市や東京には美術館やギャラリー、個人的でオルタナティブなスペースなどがたくさんありますが、移動に時間がかかることも、京都は動きやすい距離のなかにそれらが詰まっています。また、ここには歴史的に蓄積された文化・芸術がいたるところにあり、ものづくりへの信頼や尊敬、そして美意識といったものが人や街に深く根付いています。このことは現代美術を学ぼうとしてもプラスになるものです。

アート・デザインシーンの活況

さらに、京都の特筆すべき点は「開かれた街」であることです。人口に比べて芸術系大学が多いこともあり、表現在かわる学生や国内外の研究者、アーティストたちが集まっています。「閉じた街」のように言われることもある京都ですが、実際には伝統や歴史性、固有性だけでなく、多様性や流動性が良いバランスで共存し、つねに外に向けて新しい表現が生まれている場所だと思っています。

くわえて、日本最大規模の写真祭である「KYOTOGRAHIE」(京都国際写真祭)や、演劇やダンス、美術、



「地の利」を發揮する学びを

京都精華大学には、このような京都という街が持つポテンシャルを生かしたさまざまなカリキュラムやプログラムがあります。たとえば、私が担当する授業「現代アートプロジェクト演習」では、現代アートのキュレーションを実践的に体験するため、学生が作家のリサーチから出品依頼、展示場所の調整、企画展の実施までを行っているのですが、この授業が可能なのは、若い作家たちが表現を支える人々の動きが活発で、ユニークな空間が点在する京都だからこそ感じています。また、京都の伝統美術・工芸の工房

で実習を行うプログラムは、職人の方々の素晴らしい技と現場の厳しさを、身をもって体験できる貴重な機会となっています。そのほかにも、たとえばデザイン学部でも、京都に本社を置く企業をはじめさまざまな団体と連携し、新しい商品・サービスの企画開発やデザイン提案などを実施しています。アートを学ぶ場所として利点にあふれた京都という街。この「地の利」をより發揮するために、京都精華大学では今後も新たなプログラムなど、積極的に取り組んでいきたいと思っています。



「現代アートプロジェクト演習」の授業風景

京都を舞台にした教育・研究活動 TOPICS



京都の伝統産業実習

京都精華大学では、京都の伝統産業の理論と実践を学べる独自のカリキュラムを45年にわたって開講しています。毎年夏に伝統美術・工芸の工房で2週間の実習を行う「京都の伝統産業実習」は全学部・全学科に開かれており、これまで実習が行われてきた工房も、織物や染織、京織、和紙、京版画、漆工芸、京造園、香など多種多様。マンガを学ぶ学生が陶芸の絵付けに取り組んだり、ファッションを学ぶ学生が組紐・草木染めの工房に通いつめるなど、学生それぞれが貴重な体験を通じて表現の幅を広げています。また、この実習をきっかけに伝統美術・工芸に携わる卒業生も多くいます。



企業との社会連携活動

これまで京都精華大学が培ってきた文化・芸術教育研究活動と社会を結び、学生が実際の社会から与えられた課題に取り組み評価を得る。こうした実践的な教育活動を通して、創造的資源の活用をめざす。この目標のもと、本学では企業や行政、自治体との連携による共創を活発に行っています。たとえば2023年度には、デザイン学部ファッションコースと株式会社ワコールが連携し、廃棄素材を有効活用した企画の提案やファッション製品の制作を実施。今年1月には作品展も開催し、サステナブル・ファッションについて知り、考えるきっかけづくりを行いました。

京都の魅力、 そして大学で得たこと

京都で学び、京都で暮らし、京都で仕事をする人は、この街にどんな魅力を感じているのか。イラストレーター、店舗デザイン、伝統工芸ディレクターという異なるジャンルで活躍する京都精華大学の卒業生3名に、それぞれが考える京都という場の独自性、京都でアート・デザインを学ぶ意義などについて語っていただきました。

——まず、それぞれ自己紹介をお願いします。

おおえ 私はイラストレーターとラジオDJをしています。

山崎 珍しい肩書ですね。ラジオはこの局ですか？

おおえ FM KYOTOで、毎週日曜日の夜8時から番組を担当しています。2020年に京都をテーマにした『ショート・ショート・キョート』という本を出版したのですが、そのとき番組にゲスト出演したことをきっかけにお声がけいただいて。イラストレーター

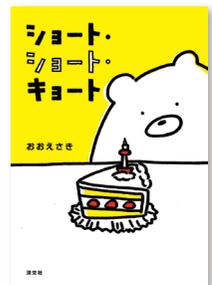
としては、個展の開催や、雑誌や書籍、ウェブで挿絵やマンガを描いたり、ロックバンドのミュージックビデオのアニメーションを描いたり……。

山崎 僕は「工芸ディレクター」を名乗っています。これはそういう職業が必要ではないかと思ひ、僕が考えてつけた肩書きです。仕事の内容は、行政から委託を受けて京都の伝統産業や伝

表現の形を固定せず、いろいろひっくるめてイラストレーターと名乗っています。

穴澤 僕は店舗デザインの設計・施工だけではなく、開業サポートからテナントの仲介、販促ツールの作成まで行う会社を経営しています。お店をやるうと思っても、不動産会社や設計事務所、デザイン会社など多方面に動き回らなくてはいけなくて大変なのですが、そこをワンストップでサポートできれば課題解決になるのではないかと考え、現在の会社を立ち上げました。

山崎 僕は「工芸ディレクター」を名乗っています。これはそういう職業が必要ではないかと思ひ、僕が考えてつけた肩書きです。仕事の内容は、行政から委託を受けて京都の伝統産業や伝



京都が描かれたマンガ単行本『ショート・ショート・キョート』
©おおえさき(淡交社)

統工芸の若手職人さんの育成プログラムを実施したり、海外で日本のものづくりを紹介する展示会を開いたり。あと、「京都伝統産業ミュージアム」リニューアルオープンのディレクションを手掛けた縁もあり、その後の企画展のキュレーションを担当するなどしています。

——仕事の内容はまさに三者三様ですが、仕事や生活のなかでみなさんが感じている、京都ならではの魅力はどんなものですか？

おおえ マンガ『ショート・ショート・キョート』は京都の日常で感じたことを表現したものなのですが、読んでくださった方から「京都ってやっぱり



穴澤さんが施工を手がけた飲食店の内観

ね。京都では、伝統工芸が息づいているのと同時にその最新・最先端もこの街のなかにある。それが世界的に注目される理由になっています。

あと、京都の魅力という意味では「ジャンルが横断的である」という点もあるように思います。音楽やアート、デザインといったさまざまなクリエイティブが、京都ではやはり地続きでつながっているんですね。僕自身、友人たちと音楽イベントを企画したり、京都精華大学で出会った作家の展覧会を開いたりしているうちに京都のなかでジャンルを越えたつながりがどんどん生まれ、そのうちに伝統工芸がフィールドになっていったのですが、そういったつながりにも「京都らしさ」を感じます。

穴澤 そうですね。とくに大学では、枠組みを越えることの大切さや面白さを強く教えてもらいました。そのことが、いまもビジネスの上でとても役立っています。

山崎 僕も、分野や境界を越えて、アートやデザイン、社会が抱える課題を包括的に考えていくという視点を持つてたことが京都精華大学で得た大きな学びになっています。卒業生としては、そうした「セイカらしさ」を京都という場所で今後も大事にしていきたいと思っています。



山崎 伸吾 さん

2000年人文学部卒業。工芸ディレクターとして若手職人の育成・支援や企画展・展示会の運営などに携わる。

おおえ さき さん

2015年デザイン学部卒業。イラストレーター・漫画家としてだけでなくラジオDJとしても活躍中。

穴澤 陸平 さん

2003年建築専攻卒業。「コストスタイル株式会社」を設立し、300件以上の店舗デザイン設計施工等を手掛ける。



山崎さんがキュレーターを務めた陶芸家と写真家のコラボレーション展

東京や大阪との比較というところ、京都って個人店が街をつくっているんだなとしみじみ感じます。老舗の店舗などの歴史的な建造物が、市内の中心地だけではなく緩やかに全体に広がっている。それは他の大都市にはない魅力だな、と。

おおえ たしかに。京都には「これは見方を変えたらどうなるだろう？」とか「自分的なデザインに落とし込むにはどうすればいいかな？」とか、考えやアイデアを深めることができる場所やものが街中にゴロゴロあります。こうした環境は、京都でデザインを学ぶことの良きなところかもしれません。

穴澤 さらに、京都ではそこに新しい個人店に挑戦しようという人たちが融合しているのも、面白いところです。

山崎 作家が営むお店や個人的な小さな飲食店などの新しいお店が、歴史あるお店と地続きにあるのが京都ですよ



アートがもっと身近になるように
できることを一つずつ

©Shimizu Kana



特殊切手「ふみの日にちなむ郵便切手」
(2023年7月21日発行)

手紙を送る人、届く人の両方に
喜んでもらえる切手を

平野 成悟さん
Hirano Seigo

美術家・キュレーター

芸術学部 造形学科
洋画コース
2019年卒業

卒業生インタビュー

独自の道を歩む京都
現在の活動や今後の夢、

精華大学の卒業生に、
セイカの思い出を伺いました。

山田 泰子さん
Yamada Yasuko

日本郵便株式会社 勤務
切手デザイナー

芸術学部 デザイン学科
ビジュアルコミュニケーションデザイン専攻
2003年卒業



セイカの思い出

3年生の時に自主企画で開催した初めての展覧会での一枚。キュレーターとしての原点が詰まっています。

作品制作と同時に、キュレーターとしてもアート活動を展開している平野成悟さん。京都をはじめさまざまな場所で展覧会の企画や作品の展示を行っています。最近ではキュレーションの依頼を受ける機会が増えているそうですが、その原点は京都精華大学の授業にありました。「芸術学部の科目『現代アートプロジェクト演習』は、学生がみずから展覧会を運営するプログラム。そこで自分の考えた企画が採用されたんです。実際にみんなで運営してみるとすごく楽しくて、在学中から自主企画での展覧会も開くようになりました。」

キュレーターの仕事は、いわば編集だという平野さん。「展覧会のコンセプトづくりに始まり、作家の選定、展示作品の見せ方、クライアントからの予算管理や配分など、展覧会のすべての決めごとに関わり調整するのがキュレーターの役割です。十中八九、予定通りには進まないですし、全方面に気を遣う仕事ですね」。それでも卒業後、年に2、3回のペースでクライアントからの依頼を引き



手描きの切手は手紙と親和性が高いと感じ、可能な限り手描きで作画する

現在、日本に7人しかいない切手デザイナー。そのなかでも山田泰子さんは、集配社員から社内公募でデザイナーに転じた初めてのケースです。

「郵便局で働いたきっかけは、転職活動中に始めた年賀状の仕分けの短期アルバイトです。小さい頃から手紙が好きだったこともあって、誰かの想いがつまったお便りを届ける仕事っていいなとすごく惹かれたんです」。そのまま郵便局で働きたいと希望し、集配社員に。日々配達の仕事に勤しむなか、社内で切手デザイナーを募集することを知って思い切って応募しました。採用後は多くの切手を手がけ、今年で10年目を迎えています。

切手の題材は、日本郵便が決めるものから、各省庁からの推薦を受けて決めるものまでさまざま。何をモチーフにどう描くか、関係各所との打ち合わせを経てデザインしていきます。「関連する場所にもできるだけ足を運びます。実際に行くとその土地が好きになり、魅力を届け

受け続けてきたのは、なによりも平野さん自身が「別々の場所で見たい作品を同じ空間に並べて観てみたいから」と言います。

実は大学2年生の頃に、描きたいものが見つからないスランプに突入。そこからギャラリー巡りを始め、多い時には1日に10軒ほどはしごすることも。たくさん作品や作家と出会うことで、自然とキュレーションという表現活動にも関心が高まり、乗り出すこととなったのです。

いま、平野さんはホテルや行政の仕事にも携わり、これまでとは異なる場所での展示企画にも取り組んでいます。「アートを見に来る人だけではない空間で、どうすれば興味を持ってもらえるのか」が現在のテーマの一つ。アートが好きのみずからも作家でありながら、他者の作品を届けるための活動もしてきた平野さんだからこそできることがきっとあるはず。新たな境地をめざして、これからも挑戦は続きます。

2会場同時開催でキュレーションしたアーティストユニットの個展



切手のデザインは公共性が求められるため、社内でのチェックも厳しく、丸ごとやり直しになることも。調整も大変ですが、「いいデザインができたときが一番嬉しい」と山田さんは笑顔で語ります。「切手は誰かに贈るもの。喜んでもらえるようになるべく手をかけたんです。感動してもらえそうな絵を描けるように、今後も全力で取り組んでいきます」。これからもどんな表現が生み出されていくのか、楽しみにしています。

切手のデザインは公共性が求められるため、社内でのチェックも厳しく、丸ごとやり直しになることも。調整も大変ですが、「いいデザインができたときが一番嬉しい」と山田さんは笑顔で語ります。「切手は誰かに贈るもの。喜んでもらえるようになるべく手をかけたんです。感動してもらえそうな絵を描けるように、今後も全力で取り組んでいきます」。これからもどんな表現が生み出されていくのか、楽しみにしています。



セイカの思い出

オーストラリア・キャンベラの姉妹校に2週間交換留学したこと。現地の人との交流、自然豊かな景色、毎日が感動的でした。

2024年度役職者・入職教職員、2023年度退職教職員一覧

2023年度をもって退職された教職員のみなさまには、これまでのご活動に深く感謝するとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。また、2024年度も多数の教職員が入職されました。新しい方々を迎え、さらなる研究・教育の発展に力を注いでまいります。

2024年度 役職者

学長 澤田 昌人
副学長 吉岡 恵美子 三河 かおり
教務部長 恩地 典雄
学生部長 田村 有香
入学部長 葉山 勉
国際文化学部長 山田 創平
メディア表現学部長 吉川 昌孝
芸術学部長 北野 裕之
デザイン学部長 森原 規行
マンガ学部長 下村 浩一
ポピュラーカルチャー学部長 吉川 昌孝(兼任)
人文学部長 山田 創平(兼任)
芸術研究科長 小松 敏宏
デザイン研究科長 谷本 尚子
マンガ研究科長 小田 隆
人文学研究科長 高橋 伸一
理事長 石田 涼
専務理事 吉村 和真
常務理事 細谷 周平

2024年度 新任教職員

2024年7月1日時点

【教員】
国際文化学部 人文学科 ユースギョン ※ 吉永 隆記 ※
グローバルスタディーズ学科 鈴木 昶生 *2023年10月1日から
メディア表現学部 佐藤 賢太郎 ジダンノワ アリーナ 谷口 直嗣 hoehoe 堤本 禮太(助手)
芸術学部 藤野 裕美子 安喜 万佐子 芳木 麻里絵 清水 稔(客員) 神頭 優太(助手) 鐵羅 佑(助手)
デザイン学部 イラスト学科 藤井 ちひろ(助手)
プロダクトデザイン学科 西野 有紀(助手)
大学院デザイン研究科 進藤 強(客員) 山本 浩三(客員) 横川 正紀(客員)
マンガ学部 カートゥーンコース 橋本 佳奈
ストーリーマンガコース 具 本媛 ※ 武富 健治 ※
新世代マンガコース 高田 悠希 藤本 早紀(助手)
キャラクターデザインコース 井上 純一 岬 ましろ 原口 翔(助手)
アニメーションコース 上村 孝人 高田 英哉 米澤 彩織 由里 香な子(助手)
共通教育機構 川瀬 紗世 山田 亜紀子
※特任教員から専任教員へ

【職員】
板倉 佑磨(教学) 伊藤 まゆみ(学長室) 大屋 佳織(学生) キース スペンサー (グローバル推進) 正司 綾子(総務) 寺尾 藍子(学生) 陳 玉欣(学生) 新美 琢真 (京都国際マンガミュージアム) 濱岡 昇(総務) 光澤 滋美(学生) 山村 優子(総務) 山本 佳代(学生) 湯澤 紗生(広報) 和田 綾香(学生)
< >内は所属グループ

2023年度 退職教職員

【教員】
メディア表現学部 ミカエル ビョルン(客員) 橋詰 知輝(助手)
芸術学部 佐川 晃司 杉本 昌裕 葛本 康彰(助手) シュライナー・コール(助手)
デザイン学部 アンドレア・F・ウルシマ 白井 慧 藤本 壮介(客員) 藤田 知里(助手) ホウ ガテイ(助手)
マンガ学部 大橋 雅央 おがわ さとし タダ ユキヒロ 都留 泰作 藤本 千賀子 和田 真一 若林 和弘(客員) 岡本 秀(助手) 河谷 大地(助手) 久保木 要(助手) 二見 央(助手)
共通教育機構 川端 平気 中井 咲貴子

【職員】
上田 修三(学長室) 佐藤 幸(学生) 田中 里香(学生) 富田 美咲(教学) 舟津 潤(経営企画) 矢竹 朱里(総務)
< >内は所属グループ
【名誉教授】
おがわ さとし 佐川 晃司 都留 泰作
(五十音順)



恩地 典雄
国際文化学部 人文学科



葉山 勉
デザイン学部 建築学科



末次 智
国際文化学部 人文学科

行動する人文学を実践！ 新鮮な発想に触れる毎日。

2001年に着任しましたが、あと2年弱で定年退職という年齢になりました。環境関係の講義科目の担当のほか、ゼミにおけるディスカッションでは学生のみなさんの新鮮な発想に触れるなど、有意義な時間を過ごしてきました。また、「行動する人文学」の標語に乗っかって、学外に出てのショートプログラム、フィールドワークも実践的な学びができる場として、取り組んできました。朽木での茅葺作業実習、東北での震災ボランティア、中山間地域の活性化、ここ数年は学生と一緒に京都市動物園の維持管理支援実習などに取り組んでいます。



「長期フィールドスタディ」でここ数年担当している京都市動物園でのフィールドワーク

私のお気に入り

焚火の炎をじっとみつめていると、宇宙の始まり、対称性の破れ、多様な世界の広がりへと思考が連鎖していきます



セイカ建築学校の理念が 100年続きますように。

建築学科の1期生から見てきて、今年は38期生を迎えました。あいかわらず、学生たちや卒業生たちと一緒に、新しい建築を模索している毎日です。今年の客員教員には卒業生3名に就任いただき、学生たちにとって楽しく建築を考え、作業する時間になりました。セイカ建築紹介冊子の冒頭の言葉。「卒業生は社会に出てくる後輩を育てる。卒業生同士がチームを組んで仕事を行う。在学期間をはじめの契機として、一生続いていく実社会での『セイカ建築学校』になっていることを嬉しく思うと同時に、これからも続いて欲しいと願っています。あと、100年くらいは」



卒業生が在学生在を教えた4月のワークショップ

私のお気に入り

1987年に教員に就任してからの手帳たち



身体を用いた対面の関係を 大切に、人として生きる！

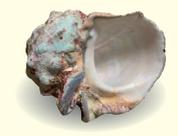
ここ10年ほどで担当する学生の質が大きく変わったと感じています。それは、2007年のスマートフォンの登場と、これによる人の関係が一般的になったからではないかと考えています。また、これに加えて、一昨年の11月に公開されたChatGPTをはじめとする生成AIの登場がもたらす影響は計り知れないと危機感を抱いています。そのようななかで「人として生きる」とはどういうことかをよく考えます。個人的には、身体を用いた対面の関係が大切になると考えています。卒業生の皆さんはどう思われますか。



奄美の集落(シマ)から海への抜け道

私のお気に入り

奄美大島のフィールドプログラムで手に入れることができる「夜光貝の貝殻」。20cmほどあり、表面には長い年月が刻まれています



あの先生元氣かな...?
そう思っている卒業生のみなさんへ、セイカの教員からのメッセージです。

第一線で活躍するゲストを迎えたアセンブリーアワー講演会



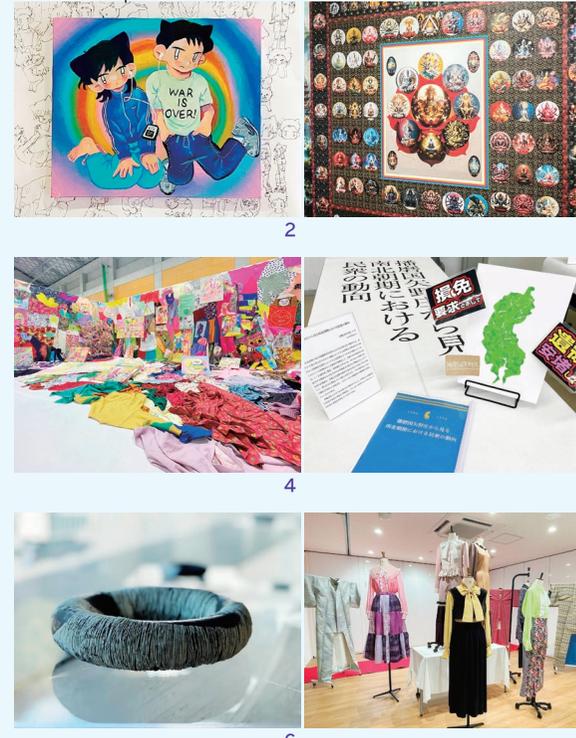
「マンガと芸術って、どうよ
～『自由の学び舎』で考える～」
この史代(マンガ家)、しりあがり寿(マンガ家)、吉村和真(本学教員)
2023年10月26日(木)

「1000の夢を描く」 塩田千春(現代美術家)
2023年11月18日(土)

公開トークイベント「アセンブリーアワー講演会」は、今期は大学創立55周年を掲げ、大型のイベントを2本開催しました。10月26日はマンガ教育50周年の記念も重ね合わせ「マンガと芸術って、どうよ」をテーマとした鼎談を開催。人気マンガ家のこの史代氏、しりあがり寿氏のお二人と、マンガ学部教員でマンガ研究者の吉村和真が登壇しました。この氏としりあがり氏は、芸術に関わる表現にも挑戦し、教育にも取り組んできました。そんな両名と吉村がさまざまな話題から「マンガと芸術」に切り込み、熱いトークを展開しました。質疑応答でも次々に手が挙がり、予定時間を超えて盛り上

がりました。11月18日は、本学卒業生であり、世界的に活躍する現代美術家の塩田千春氏をゲストに迎え、「1000の夢を描く」と題した講演会を行いました。会の進行は芸術学部教員の吉岡恵美子が務め、前半では最近の活動にも言及しつつ、塩田氏が制作を通して感じてきたこと、考えてきたことが掘り下げられました。後半には、塩田氏が在学時に師事した生駒泰充、佐川晃司も加わり、本学での日々を振り返りました。懐かしい学生時代のエピソードのなかにも、現在の塩田氏の表現者としての姿勢に通じるものを感じられ、貴重な時間となりました。

約1,000点の作品や論文を展示した卒業・修了発表展



学長賞・理事長賞の受賞作品

1. 「不二の表れ」
ツビデンティム 健人(芸術学部版画専攻)
2. 「愛は祈り」
窪田 怜美(マンガ学部カートゥーンコース)
3. 「播磨国矢野庄から見る南北朝期における民衆の動向」
安原 千乃(人文学部歴史専攻)
4. 「☺」
リュウ イティン(デザイン学部イラストコース)
5. 「廃棄着物と新しいモノを組み合わせた新たなファッションの提案」
谷川くるみ(ポピュラーカルチャー学部ファッションコース)
6. 「記録する」
セン カイテイ(芸術研究科)

本学で培った知識・技術、思考力、表現力の集大成となる成果物の数々を発表する場として「京都精華大学展2024ー卒業・修了発表展ー」を今年も2月に開催しました。学生たちが4年間使用してきた教室や体育館、校舎の壁面など約20万㎡の広いキャンパス全域を展示会場に、学部・大学院のさまざまな作品や論文を展示しました。各学部の学びに即した自由な発想の作品が並んだ会場は見どころ満載で、会期中はたくさんの来場者で大いににぎわいました。また、展示された作品のなかから、「学長賞」「理事長賞」「木野会賞」「学長奨励賞」が発表されました。



「京都精華大学展2024ー卒業・修了発表展ー」
2024年2月14日(水)～18日(日)

◆学長賞選定理由◆ 主に作品のテーマの意義、作品そのものの魅力、作品の完成度の観点から選定した。芸術学部版画専攻ツビデンティム健人さんの作品は、画像生成AIを作品のテーマ追究のために意識的に使用し、そのプロセスも含めて展示した点が、今後のAI利用の一つのモデルとなると考えられた。マンガ学部カートゥーンコース窪田怜美さんの作品はテーマの純粋性に感銘を受けた。高度な技量に裏打ちされた画力の確かさ、作品に表れている集力の高さとその持続が印象的であった。人文学部歴史専攻安原千乃さんの論文は精緻で正確な資料読解に基づいて、当時の人々の

行動を生き生きと浮き彫りにし、論文としての高い完成度も評価できる。学長奨励賞(芸術研究科コウシンケンさん)による映像作品「Halucination」については、普遍的なテーマというだけでなく極めて現代的で深刻なテーマを扱って、それを寓話的な映像表現に昇華させた点を評価した。さまざまな場面で過去の傑作へのオマージュが感じられ、楽しむことができ

(学長 澤田昌人)

◆理事長賞選定理由◆ いま在る自分/いま在る世界を超えようとする意志が感じられるが、それを支える表現技法に卓越性があるかの二つの観点から選定した。デザイン学部イラストコースリュウイティンさんの作品からは多様な色彩の氾濫する混沌を通して、強い生命力の奔出が感じられた。ポピュラーカルチャー学部ファッションコース谷川くるみさんの作品はデザインによって社会課題をはかるという意図とそれを美的に発展させようという意志の併存が体現されている点を評価した。芸術研究科センカイテイさんの作品は確固とした存在の表面に繊細な処理がほどこされ、すぐれた表現技法がみとれた。また空間配置も見事だった。(理事長 石田遼)

多くの卒業生が駆け付けた、芸術学部教員の退任記念展覧会

本学キャンパスのギャラリートラリーにて、版画専攻教員池垣タダヒコによる「リボンと角柱ーオリジナリティを探して」展、洋画専攻教員生駒泰充による「生駒泰充展ーThe Never Ending Story」展を開催しました。池垣は29年、生駒は37年のあいだ本学で教鞭をとり、23年度末での専任教員としての退任を記念した展覧会となりました。

池垣の展覧会は2月に開催。キャリア初期に取り組んだ銅版画と石膏刷りによるレリーフ、作家として注目を浴びるきっかけとなった銅板による大型作品、日々描いているドローイングやスケッチブックなど、色彩や造形が多彩でバ



池垣タダヒコ退任展
「リボンと角柱ーオリジナリティを探して」
2024年2月29日(木)～3月9日(土)

「生駒泰充展ーThe Never Ending Storyー」
2024年4月19日(金)～27日(土)

ラエティ豊かな作品が並びました。4月には生駒の展覧会を開催。油彩や卵テンペラ、アクリル絵具で描かれた100号から200号の大作を中心に展示しました。「生命の循環」を主要なテーマに生駒がこれまで描き続けてきた「The Never Ending Story」(終わりなき物語)を感じられる大規模な展覧会となりました。

両展覧会とも学内外から多くの方にご来場いただき、熱心に作品に見入る在学生の姿や、在廊していた教員本人と会話をする来場者の姿も見られました。最終日には多くの卒業生たちが駆け付け、同窓会のようなアットホームな雰囲気の中での閉会しました。

貸借対照表

(単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	26,275,768,460	26,406,974,297	△ 131,205,837
有形固定資産	18,276,554,439	18,478,380,413	△ 201,825,974
土地	4,214,991,704	4,214,991,704	0
建物	11,684,401,516	12,004,616,303	△ 320,214,787
構築物	126,826,988	126,114,047	712,941
教育研究用機器備品	1,006,190,118	909,398,115	96,792,003
管理用機器備品	57,668,082	50,195,071	7,473,011
図書	1,185,686,444	1,171,593,149	14,093,295
車両	789,587	472,024	317,563
建設仮勘定	0	1,000,000	△ 1,000,000
特定資産	7,857,604,290	7,773,297,253	84,307,037
第2号基本金引当特定資産	100,000,000	0	100,000,000
第3号基本金引当特定資産	150,000,000	150,000,000	0
退職給与引当特定資産	1,361,935,116	1,365,104,116	△ 3,169,000
減価償却引当特定資産	6,245,669,174	6,258,193,137	△ 12,523,963
その他の固定資産	141,609,731	155,296,631	△ 13,686,900
電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
ソフトウェア	9,106,394	13,214,634	△ 4,108,240
長期貸付金	124,124,073	133,692,363	△ 9,568,290
保証金	4,745,840	4,756,210	△ 10,370
流動資産	5,791,606,218	4,906,789,366	884,816,852
現金預金	5,523,756,345	4,636,036,286	887,720,059
未収入金	181,411,636	177,648,173	3,763,463
貯蔵品	10,879,994	11,255,312	△ 375,318
短期貸付金	29,383,120	28,991,870	391,250
立替金	19,166,946	15,034,847	4,132,099
前払金	24,159,963	36,996,517	△ 12,836,554
預ケ金	2,848,214	826,361	2,021,853
資産の部合計	32,067,374,678	31,313,763,663	753,611,015

(単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	3,524,780,432	3,760,006,710	△ 235,226,278
長期借入金	2,132,097,000	2,376,555,000	△ 244,458,000
退職給与引当金	1,392,683,432	1,383,451,710	9,231,722
流動負債	1,327,818,740	1,224,734,488	103,084,252
短期借入金	244,458,000	244,458,000	0
未払金	255,987,125	148,056,225	107,930,900
前受金	637,528,818	649,747,222	△ 12,218,404
預り金	189,844,797	182,473,041	7,371,756
負債の部合計	4,852,599,172	4,984,741,198	△ 132,142,026
基本金	32,120,071,514	31,474,752,797	645,318,717
第1号基本金	31,438,071,514	30,892,752,797	545,318,717
第2号基本金	100,000,000	0	100,000,000
第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
第4号基本金	432,000,000	432,000,000	0
繰越収支差額	△ 4,905,296,008	△ 5,145,730,332	240,434,324
翌年度繰越収支差額	△ 4,905,296,008	△ 5,145,730,332	240,434,324
純資産の部合計	27,214,775,506	26,329,022,465	885,753,041
負債及び純資産の部合計	32,067,374,678	31,313,763,663	753,611,015

2024年度予算について

2024年度には、通常の経常支出予算に加え、前年度から継続して進行中の空調設備・照明設備にかかる大規模更新工事やトイレリニューアル工事をこれまで未着手であった校舎等のフロアにまで展開する計画であるため、そのようなキャンパス整備のための予算を資金収支予算、事業活動収支予算の各費目に計上しました。その他、2024年度を到達点としたビジョン「2024SEIKA」の達成に向け、重点施策に関わる教育研究活動や学生支援活動のための予算等を特別事業計画予算として編成しました。一方、収入予算については学生数の微減により、学生生徒等納付金収入が前年度決算から比べて2千万円の減収となることを見込んでいます。単年度の事業活動収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含めると6億3千万円の支出超過となりますが、基本金組入前の収支は収入超過を維持します。

事業活動収支予算書

(単位:円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金	5,911,213,000
手数料	75,390,000
寄付金	21,700,000
経常費等補助金	761,883,000
付随事業収入	348,855,000
雑収入	102,505,000
教育活動収入計	7,221,546,000
人件費	3,609,632,000
教育研究経費	2,685,131,000
管理経費	779,281,000
教育活動支出計	7,074,044,000
教育活動収支差額	147,502,000
事業活動収入の部	77,315,000
事業活動支出の部	77,315,000
借入金等利息	16,411,000
教育活動外支出計	16,411,000
教育活動外収支差額	60,904,000
経常収支差額	208,406,000
資産売却差額	0
その他の特別収入	14,000,000
特別収入計	14,000,000
資産処分差額	8,562,000
特別支出計	8,562,000
特別収支差額	5,438,000
(予備費)	0
基本金組入前当年度収支差額	213,844,000
基本金組入額合計	△ 846,332,000
当年度収支差額	△ 632,488,000
前年度繰越収支差額	△ 4,905,296,008
翌年度繰越収支差額	△ 5,537,784,008
(参考)	
事業活動収入計	7,312,861,000
事業活動支出計	7,099,017,000

資金収支予算書

(単位:円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	5,911,213,000
手数料収入	75,390,000
寄付金収入	32,700,000
補助金収入	761,883,000
付随事業・収益事業収入	348,855,000
受取利息・配当金収入	77,315,000
雑収入	102,505,000
借入金収入	0
前受金収入	588,449,000
その他の収入	994,033,136
資金収入調整勘定	△ 737,528,818
前年度繰越支払資金	5,523,756,345
収入の部合計	13,678,570,663
人件費支出	3,601,302,000
教育研究経費支出	2,074,326,000
管理経費支出	742,866,000
借入金等利息支出	16,411,000
借入金等返済支出	244,458,000
施設関係支出	186,339,000
設備関係支出	296,558,000
資産運用支出	900,000,000
その他の支出	284,487,125
(予備費)	0
資金支出調整勘定	△ 125,000,000
翌年度繰越支払資金	5,456,823,538
支出の部合計	13,678,570,663

決算および予算について

学校法人京都精華大学の2023年度決算および、2024年度予算についてご報告いたします。

2023年度決算について

2023年度の事業活動収入は前年度から3億8千万円増加し、75億3千万円でした。このうち学生納付金は78.8%を占めています。事業活動支出(人件費・経費等)は66億4千万円で、当年度の基本金組入前収支差額は8億9千万円の収入超過となりました。また、基本財産取得に関わる金額を示す基本金組入額は6億5千万円となりました。当年度には、学内各所で実施した空調設備・照明設備の大規模更新工事やトイレリニューアルにかかる費用等を施設関係支出として支払いました。また、ネットワーク機器の更新や経常的な備品の更新等にかかる費用を設備関係支出として支払いました。これら施設関係支出や設備関係支出等を第1号基本金として組み入れています。なお、基本金組入後の翌年度繰越収支差額は支出超過額が49億1千万円に減少しました。支払資金(現金・預金)は前年度から8億9千万円増加し、55億2千万円となりました。法人の資産全体としては7億5千万円の増加です。一方、借入金の返済等により、負債は1億3千万円減少しました。これらにより、純資産は8億9千万円の増加です。以上の結果、純資産構成比率は0.8ポイント上昇し、84.9%となりました。

事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金	5,932,500,750
手数料	75,522,172
寄付金収入	24,851,405
経常費等補助金	839,423,167
国庫補助金	836,857,300
地方公共団体補助金	2,565,867
付随事業収入	358,866,464
雑収入	32,700,000
教育活動収入計	7,425,014,143
人件費	3,531,095,687
教育研究経費	2,405,331,296
管理経費	679,551,819
徴収不能額等	0
教育活動支出計	6,615,978,802
教育活動収支差額	809,035,341
事業活動収入の部	77,808,419
その他の教育活動外収入	0
教育活動外収入計	77,808,419
事業活動支出の部	19,593,189
借入金等利息	0
その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	19,593,189
教育活動外収支差額	58,215,230
経常収支差額	867,250,571
資産売却差額	755,997
その他の特別収入	25,748,063
特別収入計	26,504,060
資産処分差額	7,998,210
その他の特別支出	3,380
特別支出計	8,001,590
特別収支差額	18,502,470
基本金組入前当年度収支差額	885,753,041
基本金組入額合計	△ 645,318,717
当年度収支差額	240,434,324
前年度繰越収支差額	△ 5,145,730,332
翌年度繰越収支差額	△ 4,905,296,008
(参考)	
事業活動収入計	7,529,326,622
事業活動支出計	6,643,573,581

資金収支計算書

(単位:円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	5,932,500,750
手数料収入	75,522,172
寄付金収入	35,483,725
補助金収入	851,168,167
国庫補助金収入	848,602,300
地方公共団体補助金収入	2,565,867
資産売却収入	1,233,027
付随事業・収益事業収入	358,866,464
受取利息・配当金収入	77,808,419
雑収入	193,920,985
借入金等収入	0
前受金収入	637,528,818
その他の収入	1,705,098,432
資金収入調整勘定	△ 831,090,358
前年度繰越支払資金	4,636,036,286
収入の部合計	13,674,076,887
人件費支出	3,521,863,965
教育研究経費支出	1,812,204,406
管理経費支出	643,930,528
借入金等利息支出	19,593,189
借入金等返済支出	244,458,000
施設関係支出	166,384,758
設備関係支出	254,733,682
資産運用支出	1,593,657,000
その他の支出	174,355,856
資金支出調整勘定	△ 280,860,842
翌年度繰越支払資金	5,523,756,345
支出の部合計	13,674,076,887

京都精華大学ギャラリーTerra-S ※入場無料

- 京都精華大学×ソウル市立大学校交流展「828.45K-Come & Go」
2024年7月5日(金)～8月4日(日)
- 合同陶芸展
2024年8月27日(火)～8月31日(土)
- OPEN THE「KAN」
2024年9月27日(金)～10月6日(日)
- てのひらのフォーム
2024年10月11日(金)～10月19日(土)
- 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第27回華展「一步。ippo(仮)」
2024年10月25日(金)、10月26日(土)
- 木野祭2024作品展示会
2024年11月3日(日)、4日(月)
- ギャラリーTerra-S後期企画展
2024年11月15日(金)～12月21日(土)



【問い合わせ先】
京都精華大学ギャラリーTerra-S(明窓館3F)
☎075-702-5263

京都国際マンガミュージアム

- 九井諒子展 & 「ダンジョン飯」迷宮探索展
2024年7月13日(土)～10月8日(火)

※本展覧会は「京都国際マンガ・アニメフェア2024(通称:京まふ)」の連動企画です。

- 京まふ(第2会場)
2024年9月21日(土)、22日(日)



【問い合わせ先】
京都国際マンガミュージアム
☎075-254-7414

その他公開講座

- アセンブリーアワー講演会
- 公開講座ガーデンなど



サテライトスペースkara-S

- ショップ
 - ギャラリー
- 在学生、卒業生の作品が並びます。



活躍する在学生、卒業生の情報を募集しています。

情報をお持ちの方は、広報グループまでお知らせください。

- 京都精華大学 ウェブサイト
<https://www.kyoto-seika.ac.jp>
- 広報グループ
kouhou@kyoto-seika.ac.jp



News 05



本学とソウル市立大学校との交流展を韓国と日本で開催

グローバル教育と国際交流の促進を目的に、本学と韓国のソウル市立大学校とが共同で大学間交流展「828.45K Come & Go」を3月23日から29日に開催しました。展覧会には学内公募により選抜された在学生をはじめ、卒業生や教員らも加わった9名が参加し、韓国側の学生や教員ら14名と共にソウル市立大学校内にあるギャラリーで作品展示を行いました。会期中には参加者同士の活発な交流も行われ、会場は多くの来場者でにぎわいました。7月5日から8月4日には2024年度前期のギャラリーTerra-S企画展として本学においても交流展が開催されます。韓国から本展に参加する作家たちの来学も予定されており、さらなる展開を期待しています。

News 06



撮影：衣笠 名津美

アフリカマンガの“今”を知れる「アフリカマンガ展」を開催

京都国際マンガミュージアムにて、日本初となるアフリカ(フランス語圏)のマンガをテーマにした企画展「アフリカマンガ展-Comics in Francophone Africa-」が2023年10月26日から翌年2月18日にかけて開催されました。歴史と作品、作家、ファン文化、出版形態などの視点から、アフリカのマンガ文化を紹介。さらに、15名以上のアフリカ人作家によるマンガ作品の複製原画(デジタルプリント)、書籍や雑誌なども展示。バンド・デシネ(フランス語圏のコミックス)やアメリカンコミックス、日本マンガに影響を受けて動き始めたアフリカマンガの“今”を知り、アフリカの新たな側面や、国境を超えていくマンガの力が感じられる展示となりました。

News 03



2023年度学長表彰受賞者決定表彰式を挙行

「京都精華大学学長表彰」は、本学の関係者を対象に、学術・芸術・社会活動などを通して京都精華大学の名誉を高め、本学の活性化につながる功績のある方や団体を学長が表彰するものです。2023年度学長表彰にも多数の推薦が寄せられ、以下2名と1組に賞が贈られました。

- 【卒業生功労賞】
岸 映子(人文学部 卒業/陶芸家)
ミロコマチコ(人文学部 卒業/画家・絵本作家)

- 【学長特別賞】
キャンピングカー制作プロジェクト
(教員・学生によるグループ)

News 04



高校生の創作活動を応援するコンペティション「SEIKA AWARD 2024」を開催

高校生の自由な創作活動の応援と新しい才能の発見を目的とした、本学主催のコンペティション「SEIKA AWARD 2024」を開催しました。第5回目となる今回のテーマは昨年に続き「世界」です。全国からは974点もの応募があり、高校生たちのさまざまな作品が集まりました。応募作品から入選作品150点を選考し、さらにそのなかからグランプリや学長賞など46点の入賞作品を発表。3月16日から24日には本学ギャラリーTerra-Sにおいて入選作品展を開催し、受賞者やそのご家族、学校関係者が全国各地から訪れました。3月17日には授賞式を対面とオンラインで行い、学長、副学長より受賞者にお祝いの言葉と賞状が贈られ、なごやかな式となりました。

News 01



学生がデザインしたキャンピングカーがジャパンキャンピングカーショーで販売

京都精華大学、株式会社キャンピングカーランド、株式会社レクビィによる連携事業で、学生がデザインしたキャンピングカーが完成し、2023年12月22日に学内でお披露目会を行いました。同車両は、2月2日から行われた「ジャパンキャンピングカーショー2024」にも出展し、実車が製造・販売されました。本プロジェクトは、全学部対象の共通教育科目「社会実践育成プログラム」の一環として行われ、受講生はデザイン学部プロダクトデザイン学科の2年生を中心に、約20名が参加。授業では、グループで突き詰めた最終案を企業側にプレゼンテーション。完成した車両は、老若男女問わずキャンピングカーを楽しめることをめざし、「遊び心」をキーワードに制作されました。

News 02



撮影：仲川 あい

性の多様性に関する知識を備えたアートマネジメント人材育成プログラムを開講

文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」として、2021年度から「アートマネジメント人材育成プログラム」を行っています。3年に渡ってマイノリティの権利、とくにSOGI※をはじめとしたく性の多様性に関する知識と、それらを踏まえた表現倫理のリテラシーを備えたアートマネジメント人材を育成するプログラムを開講してきました。最終年度となる2023年度は、ワークショップ「『聴く』ことの不透明性とマイノリティの表現」、レクチャーシリーズ、「ひととひとは、いかに向き合うのか」を実施。また2024年1月には海外アーティストを招聘し、上映パフォーマンスと映像展示をGallery PARCと京都芸術センターにて開催。多くの方にご参加いただきました。

※Sexual Orientation, Gender Identityの略

～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学で学ぶ多くの学生の生活支援、本学のさらなる教育・研究活動の充実のため、温かいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

●寄付募集Webサイト

クレジットカード決済、コンビニ決済、インターネットバンキング決済など、ご希望の方法をご利用いただけます。



●リサイクル募金Webサイト(きしゃぼん)

本やDVDに加え、貴金属などの換金査定額をご寄付となります。

●京都市ふるさと納税を通じたご支援 (ご利用が増えています)

『『大学のまち京都・学生のまち京都』の推進～市内大学と協働!学生さんの挑戦を応援!～』
をお選びいただき、応援したい大学に京都精華大学をご指定ください。ふるさと納税の寄付金の一部が本学の社会貢献活動の費用に充てられます。

2023年度は、法人・個人あわせて38,734,844円のご寄付をいただきました。加えて、リサイクル募金は179,122円分、ふるさと納税を通じたご支援には7,317,000円をお寄せいただきました(ふるさと納税寄附金は京都市の手数料等を除いた額が本学に今年度補助されます)。心より感謝申し上げます。2024年度も、本学のめざす「表現で世界を変える」教育・研究活動のために、ぜひみなさまにお力添えいただければ幸いです。ご支援・ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

お問い合わせ

京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail: donation@kyoto-seika.ac.jp

TEL 075-702-5201

FAX 075-702-5391

『木野通信』送付先の変更について

ご住所等の変更を希望される方は、木野会ホームページまたはFAXで変更事項をご連絡ください。

学校法人京都精華大学 経営企画グループ 木野会事務局

<https://seikajin.com> FAX 075-702-5391

京都精華大学

国際文化学部

人文学科

グローバルスタディーズ学科

メディア表現学部

メディア表現学科

芸術学部

造形学科

デザイン学部

イラスト学科

ビジュアルデザイン学科

プロダクトデザイン学科

建築学科

マンガ学部

マンガ学科

アニメーション学科

人間環境デザインプログラム

人文学部

総合人文学科

ポピュラーカルチャー学部

ポピュラーカルチャー学科

大学院

芸術研究科

デザイン研究科

マンガ研究科

人文学研究科

表紙の作品

『記録する』2023年度 修了制作
セン カイテイさん(大学院芸術研究科)

素材:磁器土、釉薬

サイズ:21cm×21cm×5cm(円環一つ)



文字がなかった時代、原始的な記録方法の一つに縄や紐の結び方によって、伝達する手法がありました。私はこのことに着目し、円環の素地に糸を巻き付けることによって生まれるテクスチャーを「記録紋」と名付け制作してきました。始まりも終わりもない円環が「記録紋」を施し、焼成時によって動く文様は、私と自然で世界のバランスを探索する共同作業です。

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第82号

2024年7月26日 発行

京都精華大学 広報グループ

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL 075-702-5197 <https://www.kyoto-seika.ac.jp>